

# 東京新聞

夕刊

中日新聞東京本社  
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号  
〒100-8505 電話 03(6910)2211



放射線

今、オリンピック選手だった二人のマラソンランナーがアフリカを訪問中である。瀬古利彦さんと有森裕子さん。十九日にタンザニアの難民キャンプで駅伝大会を行う。

瀬古さんは、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)と協力し、駅伝を推進している。チームでタスキとタスキをつなぐ駅伝は「難民支援に適したスポーツ」という。タンザニアはアフリカ最大の難民受け入れ国。難民以外の一般住民も交えて人のつながりを深めてゆきたいと話す。有森さんは国連人口基金(UNFPA)の親善大使。カンボジアのハーフマラソンを支援するなど、スポーツを通して人々を元気にしたいと活動してきた。日本を代表する一人のスポーツ選手が、二つの国連機関を率い

## 駅伝で越える壁

てアフリカの難民のため尽力してくれる。国連にも、縦割りの傾向はある。コフィー・ナン前事務総長は国連改革の一環として「一つの国連」を提唱した。たとえば

母子保健活動が世界保健機関(WHO)、ユニセフ、国連人口基金などから別々に行われるのではなく「一つの国連」から提供するのが理想だ。なかなか思うようにいかない。国連機関にはそれぞれ得意分野や歴史があり、組織間に壁があるのも事実だ。

瀬古さんと有森さんの今回のタンザニアでの駅伝大会には二つの国連機関が協働した。二人の著名なスポーツ選手が、軽々とその壁を乗り越えさせてくれた。頼もしく、ありがたく感じている。

(池上 清子) 国連人口基金東京事務所長

